



桃五だより



No.588

(6月号)

2020.6.1

杉並区立桃井第五小学校

<https://www.suginami-school.ed.jp/momo5shoubg/>

前を向かせたい

校長 川 田 忠

天気予報で「夏日」という言葉が連日使われる時季となりました。始業式・入学式から2か月の時間が流れましたが、ようやく桃五小の今年度教育活動がスタートします。

長い時間でした。各家庭においては、子供との濃密なかかわりが続き、たくさんのよい時間があったと同時に、なかなかしんどい時間もあったのではないかと推察します。

さて、学校に戻ってきた子供たちに対して、広く深い様々な指導が必要です。まず、学習の遅れを取り返していくことがあります。進級した新しい学年の学習内容を、できる限り今年度内で挽回していかななくてはなりません。体力面の停滞も、とても気になります。運動遊びの量が極端に少なかった子供たちがいることでしょう。そして、学校があるときとは違う生活リズムになってしまった子供たちも、間違いなくいると予想しています。

こういった目に見える様子に対して、一人一人の状況に応じた指導を丁寧に進めていきたいと考えています。学力だけでなく、体力や生活力すべてにおいて、臨時休校による影響があることを前提にした指導を心がけていきます。

今回の臨時休校を通して、学校として最も心配していたことは、子供たちの気持ちの問題でした。学校に対する気持ち、みんなと生活できないことで起こる不安や心配、進級したり入学したりして高揚した学校生活への思いが、通常の年度当初と比べて大きく変わってしまうのが一番の危惧でした。

気持ちは、見えません。目に見える様子よりも、気持ちを理解することははるかに難しく、何よりも大切なことだと考えています。学習を進めるにも、体づくりを行うにも、子供たちの気持ちが学校生活に向いていなければ成果は期待通りに表れてこないからです。

臨時休校中に、子供たちに向けてメールでメッセージを届けました。担任直筆の手紙を書いて子供たちに送りました。電話で子供たちと話すこともしました。ホームページの動画によって、学校生活再開に向けての期待を届けることにしました。学校や担任とつながっているのを感じてくれること、子供たちの気持ちに届くことを願っていくつかの手を打ってきましたが、通常の学校生活時の様子と比べたら、とてもとても充分であったとは思えません。

大人も初めて経験する事態で、世の中全体が動揺している時間が流れてきました。この間、静かにじっと堪えることが生活の中心でした。社会全体の耐える姿を見たり、聞いたり、触れたり、共にしたりしてきた子供たちは、言葉にならない想像以上のストレスを感じてきたことでしょう。

子供たちが待っていた学校生活なのだから、桃五に通ってくる子供たちを力強く後押ししたいと思います。「学校でみんなと一緒にやっぺいこう」を、目と目を合わせた中で伝えて、少しでも子供たちの心配や不安を取り除き、気持ちを盛り上げてあげたい。前を向かせてあげたい、と思います。一日も早く日常生活を取り戻し、子供たちを本来の姿に戻すよう力を尽くす6月にしていきます。

6月の生活指導目標

もも五の子どものやくそくを守ろう

長い休業期間が明け、学校生活が再開しました。1日でも早く学校の生活リズムに慣れ、安心、安全で楽しい学校生活を送っていきましょう。そのためにも、「桃五の子どもの学校生活『学習』『生活』」を守って過ごしましょう。ご家庭でのご協力もよろしくお願ひします。

また、気温が高い日が増えてきました。気温に合った服装やこまめな水分補給を行い、熱中症予防にも努めましょう。